

イベント取材の夢が消えた後（その 11）

神谷 直亮

「第 35 回日本ゴールドディスク大賞」「第 96 回放送記念日」「第 44 回日本アカデミー賞」「第 2 回しばれるアワード」「衛星の打ち上げラッシュ」「ニコンの MORF3D Aerospace 買収」「サムスン電子の Neo QLED テレビ」「C SEED Entertainment Systems 社の折り畳み式 4K テレビ」

3月の後半は、筆者のような後期高齢に達した巣ごもり生活者を退屈させない半月となった。楽しみの後ろ楯は、イベントのインターネット配信である。

まず、3月15日に日本レコード協会が「第35回日本ゴールドディスク大賞」の受賞作とアーティストを発表した。2020年に最も活躍したアーティストに贈られる「アーティスト・オブ・ザ・イヤー」の邦楽部門の受賞者は嵐、洋楽部門の受賞者はクイーンであった。嵐は、2年連続7度目の受賞で、クイーンは、3年連続4度目の受賞である。

2020年にデビューして売り上げ実績が最も多いアーティストに贈られる「ニュー・アーティスト・オブ・ザ・イヤー」賞は、

SixTONESに贈られた。今回新設された「ソング・オブ・ザ・イヤー・バイ・ストリーミング」の初受賞作は、Official髭男dismの「I LOVE・・・」であった。

次いで、3月19日に「第96回放送記念日」の記念式典が開催された。新型コロナウイルス防止のためNHK放送センターのスタジオを使って無観客で行われ、恒例のNHK放送文化賞が放送事業の発展に貢献した7氏に授与された。今回の受賞者(敬称略)は、脚本家の大石静、俳優の北大路欣也、北の富士勝昭、さだまさし、杉田敏、鈴木陽一、夏井いつきであった。

NHK放送文化賞は、1949年に放送開始25周年記念事業として創設され、これまでに474人が受賞している。

さらに本誌3月号で触れた「第44回日本アカデミー賞」の授賞式が、予定通り3月19日に行われ、最優秀作品賞には「ミッドナイトスワン」(制作:CUREN、アットムービー)が輝いた。同作品からは、草彥剛が最優秀主演男優賞を、長澤まさみが優秀女優賞を受賞している。最優秀監督賞は、「Fukushima 50」の若松節郎監督が、最優秀助演男優賞は、同作品に出演した渡辺謙が受賞した。

なお、最優秀アニメーション作品賞は、「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」、最優秀外国作品賞は、「パラサイト 半地下の家族」に授与されている。

3月25日には、北海道・東北発のコンテンツの祭典「第2回しばれるアワード」の贈賞式をYouTubeで視聴した。ニューメディア函館センターの協力で配信が実現



写真1 3月15日に日本レコード協会が「第35回日本ゴールドディスク大賞」の受賞作とアーティストを発表した。(出典:golddisc.jp/award)



写真2 3月19日には、「第44回日本アカデミー賞」の授賞式が行われ、最優秀作品賞には「ミッドナイトスワン」が輝いた。(出典:Japan-academy-prize.jp)



写真3 Space-X社は、3月に合計240機のStarlink低軌道周回衛星をFalcon-9ロケットで打ち上げた。(出典:SpaceX.com)



写真4 スーパー JSAT 社が久しぶりに「Superbird-9」衛星をAirbus Defense & Space社に発注して注目を集めた。(出典:airbus.com)

したという。冒頭の挨拶でジェイコム札幌の吉田政志運営委員長は、「地上波では視聴できない優れた地域コンテンツを表彰するのが『しばれるアワード』の目的で、期待されているのは、氷柱のようにとんがったコンテンツである」と述べた。

今回インターネットで紹介されたのは、放送番組部門でグランプリを獲得した「アップルは届かず。日本最後の空襲はなぜ決行されたか？」（制作：秋田ケーブルテレビ）と準グランプリに輝いた「函館図鑑 戦後75年 函館と旧戸井線を訪ねて」（制作：ニューメディア函館センター）、配信動画部門でグランプリを取った「百景～雪明りの動物園」（制作：旭川ケーブルテレビ）、準グランプリの「ウィズコロナ フェイスシールドをしながら食べてみた」（制作：ニューメディア函館センター）のハイライト映像と各受賞者の代表のコメントである。これら他に審査員特別賞を獲得した「拝見出羽テレビんだす!」（制作：ニューメディア米沢センター）も面白かった。

3月には、衛星の打ち上げが7回も行われている。最近では、打ち上げ射場からの生中継が多くて楽しみ生活者にとって非常に助かる。

まず、3月4日、11日、14日、24日にSpace-X社がそれぞれ60機のStalink低軌道周回衛星をFalcon-9ロケットで打ち上げた。筆者の記憶が正しいとすれば、これら240機が加わったことで、累計1333機のコンステレーションが出来上がっている。そろそろ世界各国でブロードバンドインターネットの通信実験が始まるものと思われる。

次いで、3月22日には、Rocket Lab社が同社のElectronロケットでBlackSky Global社の衛星を含む7機の小型衛星を打ち上げた。Space Industries社の子会社のBlackSky社は、2013年に設立された地理空間情報の提供を目標とするベンチャー企業で、シアトルを拠点にして小型観測衛星のコンステレーションを構築中である。

同じく3月22日にロシアでは、Soyuzロケットを使って38機の衛星が打ち上げられた。この中には、日本のアストロスケール社の「ELSA-d」衛星、韓国の「CAS500-1」衛星が含まれている。ELSA-d衛星は、スペースでプリ（宇宙の

ごみ）を取り除くデモを行うことになっており業界の注目の的だ。韓国航空宇宙研究院が開発した「CAS500-1」は、地球観測用の中型衛星の第一号である。

さらに、3月25日にアリアンスペース社がOneWeb Communications社の低軌道周回衛星を36機打ち上げた。使用されたロケットは、ソユーズである。OneWeb Communications社のコンステレーションは、これで累計146機になった。

衛星の発注も3月に3種8機を数えた。まず、日本のスカパーJSAT社が久しぶりに「Superbird-9」衛星をAirbus Defense & Space社（エアバス）に発注した。同社の報道発表によれば、「アジア初となるKuバンドを用いた革新的なフルデジタル技術を活用し、お客様の利便性を飛躍的に高める卓越した柔軟性を持つ最新技術を搭載している」という。フルデジタル化された通信ペイロードを搭載し、静止軌道上で自由に通信地域や伝送容量を変更できるこの最先端を行くフレキシブル衛星は、2024年に東経144度に打ち上げられる。次いで、6機のGalileo Navigation衛星がThales Alenia Space社に発注された。ヨーロッパのGalileoは、アメリカのGPSと並ぶ衛星測位システムとして知られ、すでに26機の衛星によるサービスが提供されている。

さらに、ユーテルサット社が、「Eutelsat-36D」衛星をエアバス社に発注した。エアバス社が開発した「Eurostar NEO」プラットフォームを基盤にした衛星で、東経36度からDirect-to-Home衛星放送サービスに使用される。サービス地域は、アフリカ、ロシア、ヨーロッパと非常に広域に及ぶ。

4月に入って目についたニュースとしては、デジタルカメラ大手ニコンの宇宙・衛星業界への進出が挙げられる。同社の発表によれば、2日にアメリカの衛星部品メーカー、MORF3D Aerospace（モーフ3D）社を買収し

て、宇宙・衛星分野の部品製作に参入するという。カリフォルニア州エルセグンドを本拠とするモーフ3D社は、その名称の通り中小型衛星の金属部品を3Dプリンターで製作しており、すでにボーイング社に納入実績がある。買収金額は公表されていないが100億円規模とみられている。

一方でニコンは、一眼レフカメラ本体の国内生産を年内で終了するとの発表を行って業界を驚かせた。プロ向けの高性能機種「D6」の生産は、コストを削減できるタイの工場に移管するという。背景にあるのは、スマートフォン搭載カメラの性能向上であると思われる。

テレビ業界では、韓国のサムスン電子の量子ドットデバイス・ミニLEDを搭載したテレビ「Neo QLED」とオーストリアのCSEED Entertainment Systems社が開発した「世界初」と豪語する165インチ折り畳み式4Kテレビ「M1」が話題になっている。

「Screens Everywhere, Screens for All」を掲げるサムスン電子は、8K「QN900A」モデルと4K「QN90A」を目玉にして世界のテレビ業界をリードする決意のようだ。

「M1」は、4KマイクロLED（16bit per color）を採用し、4枚に折り畳めるディスプレイ部分の継ぎ目を見えなくする「Adaptive Gap Calibration Technology（最適化ギャップ校正技術）」が特色である。重量については、「1.350kg」と発表している。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

ハイビジョン伝送・災害・報道・海外派遣



<SATCUBEアンテナの特長>

- 47cm x 30cm x 5.5cmビジネスバッグに入ります!
- SCPCモデル・Sat-Qモデル・各種あり
- 災害/報道/海外派遣映像音声伝送インターネット接続/ハイビジョン伝送可能
- わずか1分で通信可能組立不要・工具不要
- 衛星補足は内蔵ディスプレイのアシスト機能で素早く簡単
- 航空機対応可能バッテリーで運用可（約3時間運用可能）
- 運用中のバッテリー交換可（ホットスワップ対応）
- モバイル中継装置（TVU・Live U・スマテレ等）と連携可

SATCUBE

【驚愕の超小型平面アンテナ!】

スタンダードなSCPCでのSNGモデルに加え2020年7月に新しくスタートしたスカパーJSAT社の新サービス「Sat-Q」モデルもラインナップ。お客様の運用にマッチした利用が簡単にできます。放送などのHD映像伝送・災害通信・海外通信・企業のBCP向けなど幅広く利用可能です。

Communications k.k. エーティコミュニケーションズ株式会社

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14
TEL: 03-5772-9125 <http://www.bizsat.jp>